

一般財団法人 千里文化財団
2020 年度事業計画及び収支予算書
(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

2020 年 2 月 17 日 (理事会資料)

※赤字については新型コロナウイルスの影響による臨時休館等に伴う変更点 (9 月 1 日修正追加)

一般財団法人千里文化財団

2020年度事業計画書（2020年4月1日～2021年3月31日）

当財団の目的は、「民族学・文化人類学等の振興を図るため、国立民族学博物館等関係諸機関と連携しその普及に努める。それらの活動を通して人類の多様な社会や文化に対する市民の理解と教養を培い、社会の発展に寄与する。」と定められ、その目的を達成するための各種事業を推進し、文化振興や次世代育成等を含め、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいる。

本年は、'70年万博※から50年の節目にあたるとともに、梅棹忠夫国立民族学博物館初代館長の生誕100年をむかえる。今日、世界各地で自国中心主義や民族紛争、難民や貧困、環境問題等が顕在化している。当財団では、未来をきりひらくべく、こうした諸問題にむきあい、文化人類学・民族学の普及ならびにその研究拠点である国立民族学博物館の活動支援をおこなう体制を整えるため、公益認定申請をおこない、財務の改善や各種事業の調整に取り組む。

また、オリンピック・パラリンピックの開催に合わせて国立アイヌ民族博物館が開設され、国立民族学博物館でも、この動きと連携するかたちで特別展「先住民の宝」が開催される。当財団では多くの方々が注目するこれらの催しに連動し、普及事業や会員増強活動を目指したい。入館者数は、昨年の特展「驚異と怪異」の好調をうけて、2019年度の入館者数の想定が30万人を超える状況となっている。

※国立民族学博物館は、1970年大阪で開催された万博の跡地に設立された。

千里文化財団の2020年度の重点的な取り組み（案）

- 1) 公益認定の申請
- 2) 梅棹忠夫生誕100年記念事業
- 3) '70年万博開催から50年、2025年大阪関西万博開催まで5年となる記念の年度として、万博の理念と当財団の目的にかなう、各種事業を推進する。
- 4) 文化多様性の視点でSDGsを再考する

1. 民族学・文化人類学等普及事業

一般市民を対象に、民族学・文化人類学の普及のため、国内唯一の民族学・文化人類学の研究センターである国立民族学博物館の協力のもと、学術情報をわかりやすく提供する各種事業を企画・実施する。

- 1) 国立民族学博物館収蔵資料「梅棹忠夫アーカイブズ」の整理及びデータの整備への協力
膨大な梅棹忠夫アーカイブズ資料を整理し、総合的に関連付けた基礎データの作成、及び活用に向けた支援
別紙1：梅棹忠夫生誕100年記念関連事業
- 2) 民族学・文化人類学の研究促進・普及を目的とした図書の企画・編集・発行
家庭学術雑誌『季刊民族学』4号（172号～175号）の編集、発行及び集広
別紙2：2020年度『季刊民族学』企画内容（案）

- 3) 国立民族学博物館、及び民族学・文化人類学の普及を目的とした各種講演会及びセミナー等の企画・運営
別紙3：2020年度講演会等企画内容（案）
- 4) 関連分野の研究活動の普及を目的とした事業の協力

2. 国立民族学博物館利用促進事業

国立民族学博物館の利用の促進を目的として、一般市民を対象に、各種協力事業を実施することにより利用者の便宜を図る。

- 1) 国立民族学博物館の展示理解向上及び普及のための教材制作事業
- 2) 国立民族学博物館の展示理解向上のための教材頒布及び広報普及事業としてのミュージアム・ショップの運営事業
 - ① 国立民族学博物館 本館展示の『展示案内』、特別展及び企画展の解説書、『月刊みんぱく』、『研究報告』、『民博通信』等国立民族学博物館の刊行物の頒布
 - ② 国立民族学博物館の映像資料の複製発行及び頒布
 - ③ 国立民族学博物館オリジナルグッズの開発・販売
 - ④ 現地産民族資料及び民族学・文化人類学関連図書の頒布
- 3) 国立民族学博物館の普及事業
 - ① 「国立民族学博物館友の会」の運営及び会員の増強
国立民族学博物館並びに民族学・文化人類学の普及を目的とし、千里文化財団が国立民族学博物館と市民のあいだのかけはしとなる友の会を設け、博物館の活動を支援するとともに、市民の博物館活用を促す。
2020年度の取り組み
会員種別毎に広報内容と対象を絞り、会員増強を目指す。
→ 春及び秋の入会キャンペーンの実施 → 中止
→ ‘70万博開催50周年に併せ、万博記念公園関連施設との連携の強化
→ 催し（サービス）の充実：東京での講演会、他の文化施設等との連携事業 他
→ キャンパスメンバーズの特典及び紹介コーナーの見直し
 - ② 「国立民族学博物館友の会ニュース」の制作・発行（年6回発行） → 追加発行
 - ③ 国立民族学博物館キャンパスメンバーズの運営
 - ④ 国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』の編集協力・制作及び編集事務（受託事業）
 - ⑤ 国立民族学博物館オリジナルカレンダーの制作及び頒布

4) 国立民族学博物館来館者の学習支援事業

- ① 展示案内学習支援等業務を受託し実施する。(受託事業)
展示資料に関する情報提供・案内・学習支援、各展示場の施設・設備の案内、
看視業務をおこない、来館者への研究成果の情報提供を有効におこなう業務
- ② 研究資料整理・情報化及び利用管理業務を受託し実施する。(受託事業)
標本資料及び映像・音響資料に関する情報の作成及び資料の整理等をおこなうと
ともに、情報サービス、展示準備・展示運営のための資料管理及び情報の作成・
管理等業務
- ③ 民族学資料共同利用窓口業務を受託し実施する。(受託事業)
国立民族学博物館の民族学資料（標本資料、文献図書資料、オリジナル映像・
音響資料及び研究アーカイブズ資料）について館内外からの問い合わせに対応
する窓口業務
- ④ 関連催し物の開催支援及び運営事業（受託事業）

5) その他 国立民族学博物館活動に協力する事業

- ① 国立民族学博物館 特別展「先住民の宝」(3月19日～6月2日→10月1日～12月15日)、
「ユニバーサル・ミュージアム (仮)」(9月3日～12月1日→次年度)、
及び企画展等各種催しに対する協力
- ② 研究普及活動に対する協力

3. 博物館活動支援及び調査研究事業

博物館に集積された知的財産を活用するプログラムを企画し、そのあり方を調査研究するとともに博物館活動を支援する。

1) 博物館に集積された資料と情報の活用方法及び博物館等の連携のあり方に関する調査研究

- ① 出前授業プログラム開発及び普及 → 2020年度は中止
- ② 各地の博物館等を活用する巡回展や展覧会：
タイトル：特別展「驚異と怪異——モンスターたちは告げる (仮)」別紙4参照
開催期間：2020年4月25日(土)～2020年6月14日(日) 44日間
→ 6月23日(火)～8月16日(日)に延期し、実施
会 場：兵庫県立歴史博物館 ギャラリー

2) 博物館運営や展示のあり方に関する調査研究

- ① 指定管理者制度における博物館運営に関する調査研究
- ② 博物館におけるミュージアム・ショップの役割に関する調査研究

3) 各地の博物館展示案内等の編集業務

『愛媛県総合科学博物館 展示案内』(日本生命財団より受託。2021年1月完成予定)

4.地域活性化・文化振興協力事業

多様な文化の振興をめざし、地域の文化活動に協力する。

1) 日本万国博覧会記念公園関連施設との連携事業

現在、大阪の地域活性化、文化振興において、2025年の日本万国博覧会（大阪・関西万博）の開催は大きな位置をしめており、万博開催に向けての雰囲気成熟することは非常に重要なことである。そのため、前回の1970年万博のレガシーである万博記念公園において、2025年大阪・関西万博に向けた関連事業をおこなう。1970年万博の理念「人類の進歩と調和」を継承しつつ、2025年万国博覧会の理念「いのち輝く未来社会のデザイン」をつなげてゆくことにより、多様性と多様な価値観包摂する持続可能な社会をめざす。

令和2年度：比較文明学会 国際シンポジウムの開催 別紙5参照

2) 「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する委員会運營業務（松下幸之助記念志財団より受託）

「松下幸之助花の万博記念賞」選考する委員会の運營業務を受託し実施する。

「松下幸之助花の万博記念賞」とは、花の万博の基本理念「自然と人間の共生」の実現に貢献する、すぐれた学術研究や実践活動を顕彰するため、公益財団法人松下幸之助記念志財団が毎年授与している賞。人間が自然を尊び調和しながら生きる社会の実現と、その普及を目的とし、関連した学術研究活動を振興する事業として実施している。

3) 日本展示学会の事務業務（日本展示学会より受託）

「日本展示学会」とは、博物館・美術館等の展示に関する研究を技術論的な観点からだけでなく、社会的・文化的な観点からもひろく研究することを目的とした学会で、1982年に、国立民族学博物館において設立された。多くの市民に博物館の活用を促進し、博物館運営を支援する活動として実施している。

4) 同人雑誌『千里眼』の編集・発行

『千里眼』とは、大阪北摂の千里地域に居住する、あるいは職場をもつ知識人による同人雑誌。さまざまな業種に基盤をもつ知見者のネットワークとして、地域振興及び学術振興を支援する事業として実施している。

第150号～第153号の4号の編集を受託し発行する。

5) 長野県との「信州の山岳文化創生事業」の推進に関する包括連携協定に基づく協力

国土の7割が山地・丘陵地であるわが国において、身近で重要な資源である「山」の恵みを将来にわたり持続的に享受していくための活動として、文化人類学・民族学の観点から、山岳文化に関わる諸事業を幅広くおこなう。

長野県内の文化施設での講演会等の開催協力 → 2020年度は中止

梅棹忠夫生誕 100 年記念関連事業

1) 梅棹忠夫生誕100年記念企画展「知的生産のフロンティア」への開催協力

期間：2020年4月23日（木）～ 6月23日（火） → 9月3日（木）～10月20日（火）

2) 図録『梅棹忠夫 —— 知的先覚者の軌跡』の再版（四刷）

※「出版契約書」を民博と当財団（発行）で取り交わす。

- ・ 書籍名：『梅棹忠夫—知的先覚者の軌跡』
- ・ 納品時期：2020年3月15日予定
- ・ 販売価格：2,400円（本体価格）+ 税

3) 第 500 回みんぱく友の会講演会 梅棹忠夫生誕 100 年記念対談

タイトル：「知的生産のフロンティアの原点 —— 探検家 梅棹忠夫を語る」

□開催日時：2020年5月9日（土）13：30～15：00 → 9月5日（土）に延期し実施

□内容：

- ・ 中牧弘允理事長 挨拶 3分
- ・ 梅棹忠夫初代館長の略歴等の紹介 10分
飯田卓氏（民博教授、梅棹資料室長）
- ・ 記念対談分 75分 ファシリテーター：飯田卓氏
話者：石毛直道氏（民博名誉教授、民博第3代館長）×吉田憲司氏（民博第6代現館長）

□開催場所：国立民族学博物館 講堂

□対象：国立民族学博物館友の会会員、一般

4) 『季刊民族学』172号（2020年4月25日発行）での記念特集

梅棹忠夫生誕 100 年記念特集「1970年、梅棹忠夫が見ていた未来」 ※詳細は別紙 2 を参照

2020 年度「国立民族学博物館友の会」機関誌『季刊民族学』企画内容（案）

172号（4月25日発行）

- ① 梅棹忠夫生誕 100 年記念特集：「1970 年、梅棹忠夫が見ていた未来」
対談記事：加藤秀俊（評論家）・中牧弘允（民博名誉教授）「貝食う会と梅棹忠夫の見ていた未来」
記事再録：梅棹忠夫「未来社会のゆううつ」
記事：小長谷有紀（民博客員教授）「知的生産のフロンティアをさぐる——梅棹忠夫の見た未来」
高野明彦（国立情報学研究所 NII）「IT 時代における梅棹忠夫アーカイブズの意義と活用」
暦本純一（東京大学大学院情報学環）「知的生産から考える AI の未来」
飯田卓（民博教授）「未来に開かれた記憶装置——梅棹アーカイブズと、それを運営する梅棹資料室の役割について」
- ② 座談会記事：山中由里子（民博教授）、五十嵐大介（漫画家）、長谷川朋広（ゲームクリエイター）、西田清徳（海遊館館長）「自然界から想像／創造する～Creature Creators' Symposium」
- ③ 記事：「カザフの子ヒツジ洗い」 廣田千恵子（日本学術振興会特別研究員）
- ④ 生活用品連載 最終回：「生活用品から見る民族リアリティの在りか」 鏡味治也（金沢大学教授）

173号（7月25日発行）

- ① 特集：「土方久功と中島敦、パラオの日々」 ※土方久功生誕 120 年記念特集
記事：清水 久夫（美術史家）「土方久功の生涯とその芸術」
須藤 健一（民博名誉教授）「民族誌家としての土方久功」
安井 眞奈美（国際日本文化研究センター教授）「土方久功とパラオのストーリーボード」
安藤 礼二（多摩美術大学教授）「『野生の思考』に貫かれた表現者た」
橋本 正志（別府大学准教授）「中島敦にとってのパラオ」
飯高 伸五（高知県立大学准教授）「パラオにおける伝統の再編と日本統治の記憶」
再録：土方 久功 個人展覧会の為の前口上、サテワヌ島雑記—信仰と踊りの珊瑚礁島—
敦ちゃん
中島 敦 マリヤン『環礁』より、雞『南島譚』より
- ② 記事：「雲南少数民族紀行」 中生勝美（桜美林大学教授）
- ③ 記事：「米国に暮らすケニア人移民の生活実践（1）」 石井洋子（聖心女子大学准教授）
- ④ 連載：モノから見た宗教世界 第 1 回「受け継がれるアンデスの聖像」：八木百合子（民博助教）

174号 (10月25日発行予定)

- ① 特集：キリスト教受容のかたち：世界史の中のかくれキリシタン
- 高橋裕史（帝京大学経済学部・教授）「イエズス会の世界戦略と日本への布教」
 杉本良男（民博名誉教授）「インドにおけるキリスト教受容」
 横山和加子（慶應義塾大学名誉教授）「新大陸におけるキリスト教伝道と先住民」
 狭間芳樹（大谷大学文学部・非常勤講師）
 「近世日本におけるキリスト教の土着化とキリシタンの殉教」
 中園成生（平戸市生月島博物館・島の館学芸員）「かくれキリシタンの信者と信仰」
 桑野梓（茨木市文化財資料館学芸員）「キリシタン遺物から見る北摂地方のキリスト教受容」
 古沢ゆりあ（滋賀県立近代美術館学芸員）
 「キリシタン時代の日本とフィリピン 高山右近とロレンソ・ルイス」
 踊共二（武蔵大学教授）「再洗礼派とかくれキリシタン：東西の信仰秘匿者たち」
- ② 誌誌上再録：トークイベント「ヒトってなんだ？？ ホモ・サピエンスの誕生から文化の獲得まで」
 篠田謙一（国立科学博物館副館長・人類研究部部长）・池谷和信（民博教授）
- ③ 記事：「米国に暮らすケニア人移民の生活実践（2）（大陸を越えて密に支える）」
 石井洋子（聖心女子大学准教授）
- ④ 連載：モノから見た宗教世界 第2回「めぐりめぐるインドの神がみの像」
 福内千絵（大阪芸術大学講師）

175号 (2021年1月25日発行予定)

- ① 特集「「いのち」と現代文明」
- 池谷和信（民博教授）「人類・生き物・現代文明」
 遠藤秀紀（東京大学総合研究博物館教授）「生き物の「いのち」」
 高橋英之（大阪大学特任准教授）「ロボットの「いのち」」
 鈴木英明（民博准教授）「生き物をめぐる海域世界の交易史」
 橋本麻里（永青文庫副館長・ライター）「日本美術の表現・素材としての生き物」
 高野哲司（総合研究大学院大学博士課程）
 「都市の庭にみる植物と人 東京・谷中の住宅の庭から」（コラム）
 磯田道史（国際日本文化研究センター准教授）「牛馬と江戸の農耕文明」
 野林厚志（民博教授）「生き物文化誌とミュージアム」
- ② 記事：中村真里絵（民博外来研究員）「世界遺産の村に生きる」
- ③ 記事：神野知恵（民博機関研究員）「旅する獅子舞：伊勢大神楽の世界」
- ④ 連載：モノから見た宗教世界 第3回 古沢ゆりあ（滋賀県立近代美術館学芸員）

(2020年8月末時点)

2020 年度「国立民族学博物館友の会」講演会等企画内容 (案)

1) 国立民族学博物館友の会講演会

- 【会場：国立民族学博物館】 通算回数（開催日）：「演題」 / 講師(所属)
開催日時：毎月第 1 土曜日、13：30 ～15：30（見学会もしくは懇談会等を含む）
- 第 499 回 4 月 4 日（土）[特別展「先住民の宝」関連] → 10 月 3 日（土）に開催
「トーテムポール——カナダ北西海岸先住民の宝」
岸上伸啓（人間文化研究機構理事、民博教授併任）
- 第 500 回 5 月 9 日（土）→ 9 月 5 日（土）に開催
[第 500 回講演会] 梅棹忠夫生誕 100 年記念対談
- 第 501 回 6 月 6 日（土）→ 2021 年 1 月 9 日（土）に開催
- 第 502 回 7 月 4 日（土）→ 中止
「バスケットリー（仮）」上羽陽子（民博准教授）
- 第 503 回 8 月 1 日（土）→ 定員を限定し講堂で開催。※オンラインで同時配信
「福音以前の祖先の救済——キリシタン時代の日本」齋藤晃（民博教授）
- 第 504 回 9 月 5 日（土）[第 500 回記念講演会] 梅棹忠夫生誕 100 年記念対談
「知的生産のフロンティアの原点——探検家 梅棹忠夫を語る」
梅棹忠夫略歴紹介・ファシリテーター：飯田卓（民博教授、梅棹資料室長）
石毛直道（民博名誉教授、第 3 代館長）、吉田憲司（民博第 6 代現館長）
→ 後日、友の会ホームページ、YouTube みんなく友の会チャンネルで公開
[みんなく名誉教授シリーズ] 横山廣子（民博名誉教授）→ 中止
- 第 505 回 10 月 3 日（土）→ 定員を限定し講堂で開催。※オンラインで同時配信
[特別展「先住民の宝」関連]
「トーテムポール——カナダ北西海岸先住民の宝」
岸上伸啓（人間文化研究機構理事、民博教授）
- 第 506 回 11 月 7 日（土）→ 11 月 14 日（土）定員を限定し講堂で開催。
※オンラインで同時配信
「呪術として生き残った仏教——社会主義期モンゴルにおける世俗化
・仏教実践・還俗ラマ」島村一平（民博准教授）
- 第 507 回 12 月 5 日（土）→ 定員を限定し講堂で開催。※オンラインで同時配信
「海洋考古学の世界——沖縄の水中文化遺産とその魅力」
小野林太郎（民博准教授）
- 第 508 回 2021 年 1 月 9 日（土）
「国立アイヌ民族博物館の魅力と課題——開館半年を迎えて」
佐々木史郎（国立アイヌ民族博物館館長）
- 第 509 回 2021 年 2 月 6 日（土）三島禎子（民博准教授）予定
- 第 510 回 2021 年 3 月 6 日（土）→ 2020 年 3 月 7 日開催予定であった「災害を伝える」林勲男（民博教授）を実施予定

【会場：東京他】 通算回数（開催日）：講師(所属) / 「演題」

開催日時：不定期、13：30～15：30（懇談会等を含む）

第 129 回 4 月 29 日（水・祝）八木百合子（民博助教）会場：モンベル御徒町店
「アンデス高地の教会に集う人びとと祭りのすがた」 → 中止

第 130 回 6 月 13 日（土）鈴木英明（民博助教→準教授）会場：モンベル御徒町店
[第95回民族学研修の旅関連]

「出会いの堆積としてのスワヒリ世界、その歴史と文化」 → 中止

第 131 回 11 月頃 [特別展「“ユニバーサル・ミュージアム”仮」]関連 → 中止

第 132 回 12 月頃 鈴木紀（民博教授） → 中止

第 133 回 2 月頃 ※講師・会場調整中 → 中止

2) 国立民族学博物館友の会みんぱく見学会

開催日時：土曜日 14：50～15：30、国立民族学博物館展示場で開催

通算回数（開催日）：「展示名」 / 講師(所属)

第 79 回（4 月 4 日）[特別展「トーテムポール——カナダ北西海岸先住民の宝」関連]
岸上伸啓（人間文化研究機構理事、民博教授） → 中止

第 80 回（10 月 3 日）[特別展「“ユニバーサル・ミュージアム”（仮）」関連]
広瀬浩二郎（民博准教授） → 中止

3) 国立民族学博物館友の会体験セミナー

通算回数（開催日）：講師(所属) / 訪問先 / タイトル / 内容

① 第 83 回 開催候補日：5 月～6 月で調整中 → 中止

開催場所：万博記念公園施設「太陽の塔」及び「EXPO'70 パビリオン」

タイトル：「太陽の塔内部見学会—70 年万博の遺産（レガシー）の現在」

本年は、'70 年大阪万博から 50 年の節目をむかえる。万博記念公園で公開されている大阪万博の遺産（レガシー）に触れる現地見学のセミナーを実施することにより、万博記念公園及び国立民族学博物館の存在意義についての理解を深める。

2020 年 4 月から万博記念公園の積極的な利用促進を目的に、みんぱく友の会会員への万博記念公園施設の観覧料割引が適用される。その広報も兼ねたい。

② 第 84 回 開催時期：9 月中旬頃 2 泊 3 日を予定 → 延期

同行講師：佐々木史郎（国立アイヌ民族博物館設立準備室主幹、民博名誉教授）

訪問先：北海道

タイトル：「国立アイヌ民族博物館 訪問（仮）」

本年 4 月に国立アイヌ民族博物館が北海道白老町に開設される。佐々木史郎氏を講師に迎え、現地を訪問し、博物館開設にいたる話を伺うとともに、日本とアイヌ、先住民文化への理解を深め、多様な価値観をもつ人びとが共に生きる社会の在り方について考える。

③ 第 85 回 企画中 → 中止

4) 国立民族学博物館友の会民族学研修の旅

通算回数（開催日）： 講師(所属) / 訪問先 / タイトル / 内容

① 第 95 回 実施時期：10 月下旬から 11 月上旬の 10 日程度 → 延期

同行講師：鈴木 英明（民博助教）

訪問地：タンザニア

タイトル：「インド洋交易の拠点、ザンジバル島とキルワ島を歩く（仮）」

イスラム商人の活躍とともに、インド洋交易の拠点となった世界遺産の島 キルワ島とザンジバル島を訪ねる 10 日間。アフリカとアラブ、インド、そしてヨーロッパが出会った文化混交のスワヒリ世界を、インド洋海域世界の歴史的な変遷とともに考える。

② 第 96 回 実施時期：2021 年 2 月中旬から 3 月中旬の 10 日程度 → 延期

同行講師：鈴木 紀（民博教授）

訪問先：メキシコ（中米）

タイトル「メキシコのアルテ・ポプラル（仮）」

みんぱくの 2019 年秋季企画展「アルテ・ポプラル——メキシコの造形表現のいま」で紹介された資料を収集した工房を中心に見学する。メキシコの造形表現とともに、信仰、食文化等にも理解を深める。

5) 国立民族学博物館友の会午餐会 ※国立民族学博物館維持会員対象

第204回：7月予定 「食文化（仮）」熊倉功夫（民博名誉教授） → 延期

6) 外部広報事業

阪急生活楽校 x 国立民族学博物館 → 延期

大阪の表玄関、梅田に位置している阪急百貨店うめだ本店に設けられた、うめだホールと併設されているうめだギャラリーは、新しい生活文化の発信基地として、講演会や展示会等さまざまな目的で活用されている。2020年度も引き続き、国立民族学博物館の広報を目的とし、うめだホールを会場に、文化人類学の知見を生かした親しみやすいテーマで講演会を実施する。

話題：半期に1回開催

開催場所：うめだ阪急ホール（阪急百貨店9階）

主催：千里文化財団、阪急うめだ本店

特別協力：国立民族学博物館

7) オンラインレクチャー ← 追加した事業

梅棹忠夫生誕 100 年記念企画展「知的生産のフロンティア」に寄せて

- ・ 第 1 回 梅棹忠夫が残した「こざね」とはどういうものか
 - ・ 第 2 回「こざね」から復元する梅棹忠夫の『日本人の宗教』
- 話者：中牧弘允（千里文化財団理事長、民博名誉教授）

※追加プログラムを検討中

国立民族学博物館巡回展「驚異と怪異」展 開催概要（案）

1. 名 称 特別展「驚異と怪異——モンスターたちは告げる」
2. 概 要 ヨーロッパや中東においては、犬頭人、一角獣といった不可思議ではあるが実在するかもしれない「驚異」は、神の偉大な力を示すものととらえられ、自然に関する知識の一部として伝えられた。また、東アジアにおいては、流星や異形の生き物の誕生など、通常とは異なる現象は、天や神仏からの警告である「怪異」としてとらえられ、歴史書のなかに記録された。本展では、国立民族学博物館所蔵の民族資料を中心に、人魚、竜、怪鳥、一角獣など、さまざまな世界の想像上の生き物について紹介するとともに、警告・凶兆（モンストルム）を語源とする怪物（モンスター）の文化史的な意味について考えてみたい。
3. 主 催 兵庫県立歴史博物館、国立民族学博物館、千里文化財団、神戸新聞社
4. 後 援 兵庫県、兵庫県教育委員会、NHK神戸放送局、サンテレビジョン、ラジオ関西
5. 協 力 山陽電気鉄道株式会社、神姫バス株式会社
6. 開催期間 2020年4月25日（土）～2020年6月14日（日）44日間
→ 6月23日（火）～8月16日（日）に延期し、実施
7. 休 館 日 月曜日（5月4日は開館）
8. 開館時間 午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
9. 会 場 兵庫県立歴史博物館 ギャラリー（〒670-0012 兵庫県姫路市本町68番地）
10. 展示点数 国立民族学博物館からの借用資料 134点
オランダ国立民族学博物館からの借用資料 7点
兵庫県立歴史博物館の所蔵資料 43点
その他の博物館・図書館・個人からの借用資料 70点 計254点
11. 観 覧 料 大人 1,000円（800円） 大学生 700円（550円） 高校生以下 無料
12. 関連事業 館長対談「驚異と怪異の世界（仮）」（予定）日時／未定 → 中止
ゲスト／山中由里子氏（国立民族学博物館教授）
榎村寛之氏（三重県立斎宮歴史博物館学芸普及課長）
定員／100名（先着順）
特別展講演会「驚異・怪物・魔女（仮）」 日時／未定 → 中止
講師／黒川正剛氏（太成学院大学教授） 定員／100名（先着順）
れきはくアカデミー「怪異から妖怪へ」 日時／未定 → 中止
講師／香川雅信（兵庫県立歴史博物館学芸課長） 定員／100名（先着順）
会場／兵庫県立歴史博物館 地階ホール（無料、申込不要）
展覧会ガイド
13. その他 民博紹介コーナーや民博オリジナルグッズ販売（委託）もおこなう。

2025 年日本万国博覧会（大阪・関西万博）に向けた関連事業

1. 名 称：第 38 回比較文明学会大会 万博開催 50 周年記念国際シンポジウム

2. 趣 旨：本大会では「『いのち』をめぐる文明的課題の解決に向けて」を大会の統一テーマとする。もともとの構想は 2025 年に開催が決まった大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」にどうつなげるかを比較文明学の視点から議論することにあつた。今年 1970 年の大阪万博から 50 年あたり、梅棹忠夫、小松左京、加藤秀俊らが起草にかかわった「人類の進歩と調和」の理念がいかに継承されてきたか、また日本開催の次の万博に向けていかに継承していくかを問う絶好の機会と考えたからである。

それに加え、新型コロナウイルスによる感染症がパンデミックとなり、人類の生存に対するグローバルな脅威となっている。この問題の解決に向けてはたんに医学的な見地からの対応にとどまらず、経済や政治を巻き込んだ社会全体の課題が浮上している。しかも、将来の展望が見えないなかで喫緊の対策が求められている。換言すれば、「いのち」をめぐる重大な文明的課題が急浮上しているのである。

このような事態に全世界が直面しており、臨機応変に本大会を開催する必要がある。一般にパンデミックは早期の解決は困難であり、長期戦を強いられることは必至の情勢である。とするならば、感染症の問題もひとつの話題としながら、人類の未来社会について議論することは時宜を得ていると言えるだろう。

「『いのち』をめぐる文明的課題の解決に向けて」という統一テーマのもとに、3 つのサブ・テーマに分かれたシンポジウムを企画する。サブ・テーマは①「生き物をめぐって現代文明を考える」②「万博とユネスコの文明論的意義を考える」③「社会・文明・思想から「いのち」を考える」とし、生物多様性と文化多様性に根ざした文明多様性の是非について議論する。また国際比較文明学会にも参加を求め、日本の比較文明学会の人権、生命倫理や地球倫理の推進者との熟議をとおして、あらたな展望をひらきたい。その一方、万博やユネスコといった文化的多様性を尊重する国際的な仕組みのありかたについても検討を加える。

3. 主 催：比較文明学会、国立民族学博物館、千里文化財団

4. 期 間：2020 年 11 月 21 日～23 日（3 日間）

5. 会 場：国立民族学博物館 2 階 セミナー室

6. 大会実行委員会：

委員長	中牧 弘允	国立民族学博物館名誉教授・千里文化財団理事長（関西支部長）
副委員長	池谷 和信	国立民族学博物館教授（関西支部）
委員	小倉 紀蔵	京都大学教授（関西支部）
	朱 捷	同志社女子大学教授（関西支部）
	仲 万美子	同志社女子大学名誉教授（関西支部）
	佐々木一也	立教大学名誉教授（研究・企画委員会）
	島田 竜登	東京大学准教授（編集委員会）
	宮嶋 俊一	北海道大学准教授（広報委員会）
	加藤 久典	中央大学教授（国際委員会）
	保坂 俊司	中央大学教授（第 37 回大会実行委員長）
	大森 一三	東京学芸大学准教授（学会事務局）

8. 大会プログラム 開催方式：オンライン方式+会場参加（いずれも事前予約制で申込み順）

□11月21日（土）午前中は個人研究発表 10:00~12:00

シンポジウムⅠ「生き物をめぐって現代文明を考える」14:10~17:30

- ・司会&趣旨説明：池谷和信（国立民族学博物館）
- ・報告（報告25分、質疑5分）
 - ① 遠藤秀紀（東京大学）：生き物の「いのち」
 - ② 高野哲司（総合研究大学院大学）：東京における庭の植物と人
 - ③ 鈴木英明（国立民族学博物館）：生き物とグローバルヒストリー
 - ④ 野林厚志（国立民族学博物館）：生き物とミュージアム
- ・総合討論 奥野卓司（山階鳥類研究所、関学名誉教授）：コメント

□11月22日（日）午前中は個人研究発表 10:00~12:00

シンポジウムⅡ「万博とユネスコの文明論的意義を考える」13:00~16:10

- ・司会&趣旨説明：中牧弘允（国立民族学博物館名誉教授）
- ・報告（報告25分、質疑5分）
 - ① 佐野真由子（京都大学）：国際博覧会の文明論的意義
 - ② 服部英二（元ユネスコ文化担当特別事業部長、麗澤大学）：ユネスコの文明論的意義
 - ③ 沓名貴彦（国立科学博物館）：空間のもつ文明論的意義：上野公園
 - ④ 五月女賢司（吹田市立博物館）：空間のもつ文明論的意義：千里万博公園
- ・総合討論 赤坂信（千葉大学名誉教授）：コメント

□11月23日（月、祝日）

シンポジウムⅢ「社会・文明・思想から「いのち」を考える」10:00~17:40

- ・司会&趣旨説明：原田憲一（比較文明学会会長、前至誠館大学学長）
- ・講演 10:10~12:00（講演45分、質疑10分）
 - ① リン・ローズ Lynn Rhodes（国際比較文明学会会長、蘇州大学名誉教授、国際コンサルタント）：
Human Rights, Those Who are Governed and the Legitimacy of Law Enforcement
 - ② マイケル・アンドレグ Michael Andregg（聖トマス大学名誉教授、国際比較文明学会会員、平和運動活動家）：Developing Global Crisis
- ・報告 13:00~17:30（報告25分、質疑5分）
 - ① ウスビ・サコ（京都精華大学学長）：マリ社会における「いのち」
 - ② 広瀬浩二郎（国立民族学博物館）：バリア・フリー社会における「いのち」
 - ③ カール・ベッカー（京都大学）：生命倫理における「いのち」
 - ④ 島藺進（東大名誉教授、上智大学）：宗教倫理における「いのち」
 - ⑤ 鎌田東二（京大名誉教授、上智大学）：生き物と信仰・宗教
 - ⑥ 鈴木七美（国立民族学博物館）：エイジング・フレンドリー・コミュニティにおける「いのち」
 - ⑦ 金泰昌（韓国東洋フォーラム）：老年哲学における「いのち」
- ・総合討論 保坂俊司（中央大学）：コメント

7. 大会参加費：学会員：3,000円、一般：500円（資料代のみ）

2020年度収支予算書（正味財産増減計算ベース）

（2020年4月1日～2021年3月31日）

（単位：円）

	予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A-B)
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	3,000	3,000	0
基本財産受取利息	3,000	3,000	0
受取会費	37,550,000	39,250,000	△ 1,700,000
維持会員	12,000,000	12,700,000	△ 700,000
正会員	21,000,000	22,000,000	△ 1,000,000
家族会員	100,000	100,000	0
キャンパスメンバーズ	2,800,000	2,800,000	0
ミュージアム会員	1,200,000	1,200,000	0
フリーパス会員	450,000	450,000	0
事業収益	251,446,000	249,746,000	1,700,000
事業収益	59,000,000	57,000,000	2,000,000
受託事業収益	191,446,000	191,746,000	△ 300,000
広告収益	1,000,000	1,000,000	0
受取補助金等	1,000,000	1,000,000	0
受取助成金	1,000,000	1,000,000	0
雑収益	1,000	1,000	0
受取利息	1,000	1,000	0
経常収益計	290,000,000	290,000,000	0
(2) 経常費用			
事業費	263,229,000	259,080,000	4,149,000
給料手当	123,000,000	123,000,000	0
臨時雇賃金	27,000,000	21,500,000	5,500,000
退職手当	5,000,000	5,000,000	0
法定福利費	21,800,000	21,800,000	0
福利厚生費	610,000	600,000	10,000
旅費交通費	3,900,000	3,850,000	50,000
通信運搬費	4,800,000	5,000,000	△ 200,000
減価償却費	180,000	180,000	0
事務委託料	100,000	500,000	△ 400,000
印刷製本費	11,200,000	11,000,000	200,000
諸謝金	1,300,000	1,800,000	△ 500,000
会議費	1,000,000	1,000,000	0
光熱水費	509,000	500,000	9,000

	予算額 (A)	前年度予算額 (B)	増減 (A-B)
消耗品費	1,300,000	2,500,000	△ 1,200,000
負担金	17,000,000	15,000,000	2,000,000
原稿写真委託報酬	2,280,000	4,000,000	△ 1,720,000
支払手数料	700,000	700,000	0
賃借料	2,550,000	2,550,000	0
修繕費	50,000	100,000	△ 50,000
著作権等使用料	50,000	50,000	0
教材等制作購入費	37,100,000	35,900,000	1,200,000
教材出版物等棚卸差額	1,500,000	2,300,000	△ 800,000
館内サービス関係費	300,000	250,000	50,000
管理費	25,500,000	26,990,000	△ 1,490,000
給料手当	14,100,000	14,100,000	0
臨時雇賃金	100,000	100,000	0
退職手当	2,000,000	2,000,000	0
法定福利費	2,200,000	2,200,000	0
福利厚生費	80,000	100,000	△ 20,000
旅費交通費	150,000	150,000	0
通信運搬費	680,000	670,000	10,000
減価償却費	30,000	30,000	0
印刷製本費	160,000	160,000	0
諸謝金	3,400,000	3,400,000	0
会議費	70,000	100,000	△ 30,000
光熱水費	100,000	100,000	0
消耗品費	660,000	660,000	0
負担金	300,000	300,000	0
原稿写真委託報酬	250,000	300,000	△ 50,000
支払手数料	120,000	120,000	0
賃借料	1,000,000	2,400,000	△ 1,400,000
修繕費	100,000	100,000	0
経常費用計	288,729,000	286,070,000	2,659,000
当期経常増減額	1,271,000	3,930,000	△ 2,659,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,271,000	3,930,000	△ 2,659,000
一般正味財産期首残高	25,475,796	21,545,796	3,930,000
一般正味財産期末残高	26,746,796	25,475,796	1,271,000
Ⅱ 正味財産期末残高	26,746,796	25,475,796	1,271,000